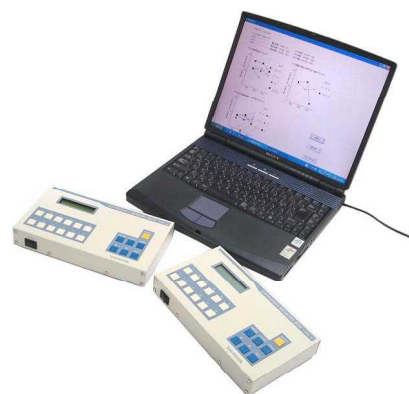


行動観察システム

50895 授業分析装置 TP-IPA

INTER PERSONAL ANALYSIS IPA

IPA(Inter personal AnaLysis)システムは、実際の(あるいはビデオに収録された)授業を見ながら、対象とする教師あるいは児童の発言や行動・表情を、あらかじめ定められたカテゴリー(12程度)に従って分類し、キーボード上の番号ボタンによって情報入力を行い、コンピュータ処理によりこれらの相互作用のかなり細かい部分、例えば、つぶやきや表情の変化等に注目した分析を行うことが可能な汎用性のあるシステムです。本器は任意にカテゴリーを設定できる上、20台まで増設出来るので、最大240カテゴリーを独立に時系列的に処理できますので、研究目的に合わせ、多様な組合わせや分析・処理ができます。また、IPAシステムの処理プログラムとして、授業研究で最もよく使われている手法であるフランダース(Flanders, N, A)の相互作用分析、ベールスの社会的相互作用分析(集団討議による課題解決学習の過程分析法)、藤田広一のST授業分析(授業の基本的な一側面である教師生徒行動の時系列パターンの分析)で分析できるため、基礎から応用まで幅広くご利用頂けます。



両手を使用して、2人分の
行動観察入力ができます

利用例

- 教室全体の授業中の言語、行動、動作、表情などの分析
- 授業中の教師や生徒の言語・行動の分析
- グループ間のディスカッションの内容分析
- 幼児の行動分析

システム構成

- カテゴリーメモリーボックス (TYPE-12) : 最大20台まで
- 授業分析プログラム (カテゴリー処理ソフト、IPA処理ソフト)

オプション製品 : カテゴリーメモリーボックス用ACアダプタ
データ解析用コンピュータ

50897 カテゴリーメモリーボックス TYPE-12

CATEGORY MEMORY BOX

対象とする人物および動物の行動や発言、表情などについて、あらかじめ定められた12因子に従ってキー入力し、記憶します。また、経過時間毎の因子発生の記憶も可能なため、相互作用の細かい部分に注目したデータ収集を行うことが可能なメモリーボックスです。メモリーボックスの複数台同時スタート機能により、複数の観察者が個々の場所で行動観察を行うことも可能です。記憶データはボックスからコンピュータへ。テキストデータはカテゴリー処理ソフトにて統計を行います。別売のIPA処理ソフトを使用して授業分析装置として使用することもできます。



仕様

表 示	20桁LCD*2桁
入 力 方 法	対話入力方式
カテゴリー数	1ボックス12カテゴリー
記 録 方 式	各カテゴリー経過時間1秒単位 記録時間 : 4時間
データ通信	RS-232C
電 源	①ACアダプタ DC12V (別売) ②内蔵電池 DC12V
外 形 寸 法	約240(W)×35(H)×165(D)mm

授業分析プログラム IPA処理ソフト

IPA ANALYSIS SOFTWARE

分析内容： データリスト グラフリスト 頻度
S-T分析 授業分析表 IPAによる分析結果

頻度グラフ マトリクス表
IPAグラフ

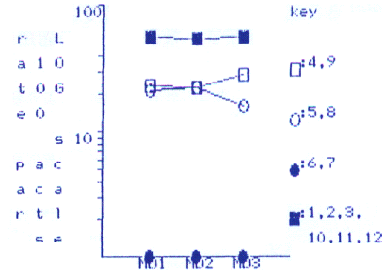
■授業分析表

**** 授業分析表 ****
S-ファイル名 = cald01.txt 開始時間 = 09:00 終了時間 = 30分 00秒
T-ファイル名 = cald05.txt SN = 27 TN = 14
1. 教師発言率 = 65.9 %
2. 生徒発言率 = 34.1 %
3. 解読率 = 19.6 %
4. 演習率 = 31.7 %
5. 討論率 = 48.8 %

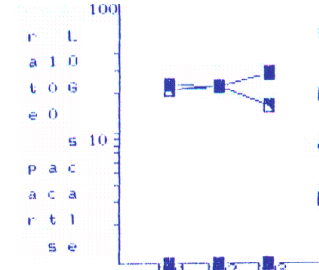
**** / T-授業分析表 ****

	種別	頻度率	時間	時間率
解読	0回	19.6 %	18分 1秒	35.5 %
演習	13回	31.7 %	28分 40秒	48.8 %
討論	20回	48.8 %	12分 50秒	25.7 %
合計	41回		59分 54秒	

■位相推移検討グラフ



■社会的情緒的領域の肯定否定のグラフ



■マトリクス表

**** マトリクス表 ****

ファイル名 = cald02.txt 開始時間 = 09:00 終了時間 = 60分00秒 (3600)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10(A)	11(B)	12(C)	Total
1	3479	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3481
2	0	12	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	15
3	0	0	8	2	1	0	0	0	0	0	0	0	11
4	0	0	0	7	2	1	0	0	0	0	0	0	10
5	0	0	0	0	7	2	1	0	0	0	0	0	10
6	0	0	0	0	0	5	2	1	0	0	0	0	8
7	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0	0	6
8	0	0	0	0	0	0	0	4	2	1	0	0	7
9	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	1	0	9
10(A)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	2	1	7
11(B)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	2	11
12(C)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	13
Total													3688

■IPAによる分析結果 集計表

**** IPAによる分析結果 集計表 ****

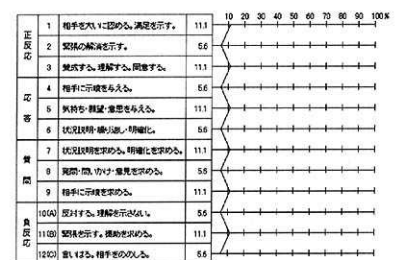
ファイル名 = cald02.txt 開始時間 = 09:00 終了時間 = 1分00秒 (60)

No.	ドット数	百分率(%)		小計
1	2	11.1	正反応	27.8 %
2	1	5.6		
3	2	11.1		
4	1	5.6	応答	22.3 %
5	2	11.1		
6	1	5.6		
7	2	11.1	質問	27.8 %
8	1	5.6		
9	2	11.1		
10(A)	1	5.6	負反応	22.3 %
11(B)	2	11.1		
12(C)	1	5.6		

■IPAによる分析結果 相互作用プロフィール図

**** IPAによる分析結果 相互作用プロフィール図 ****

ファイル名 = cald02.txt 開始時間 = 09:00 終了時間 = 1分00秒 (60)



コンピュータによる文字・映像呈示方式

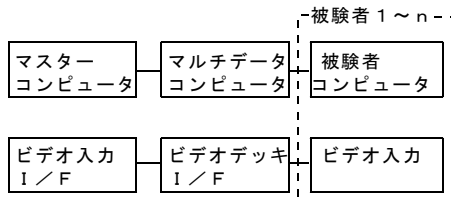
50915 同調行動分析システム

TUNING ANALYSIS SYSTEM

当システムは、コンピュータを使用し、個人が抱く自己の意見・態度の異なる集団規準を示された場合に、規準に対しての意見、態度を変化させる過程を調べることを目的としたシステムです。被験者に呈示する刺激には、コンピュータによる文字・数字・ビデオ映像などを自由に設定することが可能です。また、被験者番号を自由に割り当てたり、グループ構成なども簡単に設定することができます。

- 集団規準は：当システムの集団規準は、自分に先行して解凍する他番号の意見・態度です。この番号の回答は実験者により設定され操作された集団規準です。文章・グラフ・映像等を自由にディスプレイ上に表示できます。
- 被験者は：全て真の被験者となり、自分のディスプレイに示される他の回答を見て、自分の回答を示します。
- 実験者は：各被験者に対するサクラ（ダミー）回答を設定できます。実験モードの操作により、各被験者間の回答を被験者に知らせることもでき、また、被験者の回答をモニターできます。

【システム図】



<CDRS_SYSTEM> Copyrighted by ToyoPhysical
Proc. Name [TEST] PC LC Clr Dummy
Type [M] (Auto/Manual)
Prog. No [1] / [1]
Name [B:TEST06]
Type [D] (Dummy/Self/Group)
Sub. No [5]
Call [1, 2, 3, 4, 5, . . .]
Time. Disp [15]
Del. [7] - [20]
Answ. Real [5] Limit [1] - [6]
Hist. Disp [Y] (Y = Yes)
Data Mode [W] (W = Write)

COMMAND [] (Append/Delete/Edit/Insert/+Skip/-Skip/Quit) Page [1/1]